

日々 往来



大山 陽久

先般、日本創生会議が、2010年から40年までの間に「20〜39歳の女性人口」が5割以下に減少する自治体数が全国の約半数にのぼるとの衝撃的なレポートを公表し、大きな話題となっている。こうした人口減少は、どのようにして起こっているのだろうか。5年ごとに行われる国勢調査の

鳥取県の人口減少の実情

5歳階層別データを用い、人口は地域の経済力の根拠である。若いファミリー層に「鳥取に住み代で大幅な県外流出が顕著」と思わせる魅力はなされ、高校卒業・大学進学等をきっかけに鳥取県を離れる人が多いことがわかる。実は、上記分析レポートで、中国・四国地方で唯一、日吉津村だけが若年女性人口の増加が予想される間に、多くの若者が県内に再流入するとともに、同時に子供たちの流入も観察され、こうした若いファミリー層の流入が、1970〜80年代における県人口の増加を引き起こしていたことがうかがわれる。ところが、近年、こうした20歳代の再流入はみられなくなり、よ

耳にするシニアのウターン流入も統計上はほとんど確認できない規模に止まっている。

※本文中の人口動態分析資料は、日本銀行鳥取事務所ホームページに掲載されています。